

KDprintコンバート PDFMGPDF

PDF データを編集し、PDF データへ変換



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

特長

- ・複数ファイルの合成やページ分割、ページの削除。
- ・オブジェクトや注釈の無いページを削除。
- ・白紙ページを挿入。
- ・ページの拡大/縮小/回転。
- ・ページの比較。
- ・同 PDF や、他の PDF とのページ置換。
- ・画像やテキストを合成および抽出。
- ・フォントの埋め込み(テキスト合成時)や、使用可能なフォント名リストの出力。
- ・イメージやテキストを透かしとして合成。(要 Acrobat6.0 以降)
- ・任意の PDF データの指定ページを背景や透かしとして合成。(要 Acrobat7.0)
- ・バーコードを画像として合成。
- ・ページをラスター出力。
- ・全テキストの削除。
- ・指定した条件のレイヤーを削除。(要 Acrobat6.0 以降)
- ・指定したレイヤーを別ファイルに保存。(要 Acrobat6.0 以降)
- ・しおりの追加や抽出。
- ・注釈を FDF ファイルで出力。
- ・注釈の情報(注釈の矩形範囲や作成者等)をテキスト形式で出力。
- ・パスワードによるセキュリティの設定や解除。
- ・JavaScript を利用して閲覧条件(期限やパス)を設定可能。
- ・WEB 用に最適化。
- ・PDF の最適化。(Acrobat 8 以降で、Professional 版)
- ・PDF にサムネイルを追加。
- ・ファイルを開いたときに、「ページパネル」か「しおりパネル」を開く設定をすることが可能。
- ・文書情報(タイトル・サブタイトル・作成者・キーワード)を追加。
- ・用紙サイズや、テキストの内容によるファイルの仕分け。
- ・変換結果をメールで送信可能。
- ・フォルダ内の PDF データをまとめて一括変換することが可能。
- ・ページを逆順に並べ替える。

動作環境

Windows 2000/XP/Vista/server 2003/server 2008/7
※ただし、ご利用される Adobe Acrobat の対応 OS に依存します。

(注) Adobe Acrobat5.0 以降の製品が既にインストールされている必要があります。

標準価格

製品名	価格(税抜き)
PDFMGPDF	30 万円

オプションソフト

製品名	製品概要	標準価格 (税抜き)
KDCONV_DIR (階層構造一括変換)	階層構造の各フォルダ内に散らばっている必要なファイルを拡張子で指定し、下層フォルダまで一括変換します。	15 万円

操作方法

PDFMGPDF は、コマンドラインアプリケーションです。通常のコマンドと同じようにコマンドラインから実行することや、バッチファイルに組み込むことができます。
「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します。変換時にオプションを指定することや、属性データ変換パラメーターファイルの内容を変更することで種々な変換処理が可能となります。

変換を実行するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
PDFMGPDF 入力ファイル -0 出力ファイル -各オプション
```

[操作例]

2 つの PDF ファイル(in_dat1.pdf, in_dat2.pdf)を合成し、「outfile.pdf」として出力します。

```
A> PDFMGPDF in_dat1.pdf in_dat2.pdf -0outfile.pdf
```

```
PDFMGPDF 実行中
```

```
PDFMGPDF 実行終了
```

※オプション指定は大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。
※オプションの詳細についてはオプションの項目を参照ください。
※PDFMGPDF 実行時に Acrobat が既に起動している場合は動作をしません。

実行時のオプション

出力する PDF ファイルの設定に関するオプション

- 0 : 編集後の PDF 出力ファイル名
- PDFWEB : PDF ファイルを Web 用に最適化
- M : PDF データを合成するとき、既存の PDF ファイルに重ねて(後のページに追加)出力するとき指定します。
-M 指定なしのときは、1 度出力ファイル名(-0 オプション)を削除します。
- SAVE[flag] : PDF を保存する際に、「全保存」か「変更部分のみ保存」を選択します。
※ オプションによっては「全保存」しかできない場合があります。
- INFO[ファイル名] : PDF に「タイトル」、「サブタイトル」、「作成者」、「キーワード」を追加します。
また、PDF をオープンしたときに「しおりパネル」もしくは「ページパネル」を開く設定もできます。
- PDFOPT : PDF の最適化機能を行います。
(Adobe Acrobat 8 以降で、Professional 版のみ対応)

セキュリティに関するオプション

- Z[out_atr_file] : 属性ファイル名。下記の処理を行う場合などに指定します。
 - ・セキュリティを設定したい場合。
 - ・出力 PDF の用紙サイズ毎に出力フォルダを振り分けたい場合。
 - ・変換エラーのときに入力ファイルを別フォルダに移動・コピーしたい場合。
 - ・PDF のページ分割。(ページ範囲指定や、用紙サイズ毎の分割)
- UNLOCK[ファイル名] : Acrobat 標準セキュリティのパスワードによるセキュリティを解除
パスワードやセキュリティのかかっている PDF を編集する場合に指定します。
 - ・パスワードを記述したファイル(TEXT 形式)を指定します。
 - ・パスワードには、PDF を開くためのパスワードとセキュリティ設定を変更するためのパスワードの 2 種類があります。※ Acrobat 7.0 の添付ファイルを開くためのパスワードが設定されている場合は対応できません。
- AUTOSEC : 編集終了後に解除したセキュリティを再度設定
-UNLOCK 使用時に、入力ファイル 1 に対して有効になります。
セキュリティを解除して編集した PDF ファイルに、再び元と同じセキュリティを設定して保存します。
- TL[ファイル名] : PDF の JavaScript 機能を利用し、閲覧有効期限の設定や、PDF が指定した URL 上にある場合のみ閲覧を許可する設定を行います。
設定内容を記述したテキストファイルを指定します。

画像やバーコードの合成および、画像抽出に関するオプション

- IMG[ファイル名] : イメージ合成設定ファイル名
PDF にイメージを合成する場合に指定します。
- BC[ファイル名] : バーコード合成設定ファイル名
PDF にバーコードを合成するための設定ファイルを指定します。設定ファイルの内容から、バーコードの画像を作成し、その画像を PDF に合成します。
- BCDPI[ファイル名] : 合成するバーコードの解像度を指定
-BC 指定時に、バーコードイメージの解像度(DPI)を指定します。

- IMX[ファイル名] : 画像抽出設定ファイル名
 入力 PDF 内の画像を外部ファイルに抽出したいときに、画像抽出用の設定ファイルを指定します。
- ・ 出力形式は TIFF・JPEG・PNG のみとなります。
 - ・ DocuWorks for Windows (Ver4.1 以降) がインストールされていれば、XDW 形式での出力が可能です。その際は、JPEG で抽出した画像を XDW に変換します。
 - ・ 抽出する画像の最小サイズを指定する場合は、あらかじめ Acrobat の画像抽出機能でフォーマット毎に設定しておく必要があります。
 ただし、Acrobat 7.0 以降の場合はこの設定が有効にならないため、画像サイズによっては抽出されません。
 - ・ Acrobat の機能を利用するため、出力ファイル名称に、ページ番号や画像のインデックスが付加されて出力されます。
 - ・ Acrobat により抽出できない画像については対応できません。

しおりに関するオプション

- STX[ファイル名] : PDF しおり作成時のしおり名を入力テキストファイル。
 しおり作成時のしおり名称を指定します。
- BMOUT[ファイル名] : 入力 PDF 内のしおりデータを CSV 形式で出力します。出力されるのはページ移動のデータのみとなります。また、出力された CSV ファイルは、-STX で利用できます。
 ※ 出力される内容は、「飛び先ページ、階層、タイトル」の順番になっています。
- BMUNI [flag] : -BMOUT でしおりを出力する場合に、UNICODE で出力。
 出力される UNICODE は UTF-16 のみです。ただし、-STX での利用はできません。
 -BMUNI1 ... UTF16 Little Endian
 -BMUNI2 ... UTF16 Big Endian
- BMLLOG[ファイル名] : しおり抽出処理中、ページ移動以外のしおりがあった場合に、そのしおりタイトルをログに出力します。
 -BMUNI が指定されている場合は、その文字コードで出力します。

TEXT の合成や削除に関するオプション

- TXT[ファイル名] : 合成したい TEXT 設定ファイル名
 テキストデータを合成する場合に指定します。
- TX0[text_file] : テキスト抽出先ファイル名とページ番号
 入力 PDF 内の TEXT データを抽出し、text_file に出力します。
- ・ テキスト注釈の文字列は出力されません。
 - ・ データに現れる順序通りに出力していくため、必ずしも見た目の順番通りに出力されるとは限りません。
 - ・ TEXT の改行の位置が一致するとは限りません。
 - ・ 無効な文字コードの場合は「?」を出力します。
- TXPO[text_file, cols] : ページ毎のテキスト抽出先ファイル名とファイル名に使用する番号の桁数
 入力 PDF 内の TEXT データを抽出し、ページ毎に分割して text_file に出力します。出力ファイル名は text_file にページ番号を付加します。付加するページ番号の最小桁数を cols で指定します。
 (例) -TXOPout.txt, 3 の場合、out_001.txt、out_002.txt... となります。
- FONTLIST[ファイル名] : フォント名のリストを出力するファイル名
 使用可能なフォント名のリストを TEXT 形式で出力します。出力されたフォント名は-TXT のテキスト合成時に使用できます。
 ※ 使用可能なフォント名であっても、フォントによっては Acrobat で文字が表示されない場合もあります。
- DELTXT[ページ番号] : 指定ページのテキストを削除 (テキスト注釈は対象外)
 テキストを削除したいページを指定します。
- DELTXT1 1 ページのみ削除
 - DELTXT2- 2 ページ以降を削除
 - DELTXT1-3 1~3 ページを削除
 - DELTXT1,3 1 と 3 ページを削除
- DELWORD[リストファイル] : PDF データを検索し、リストファイルで指定した文字列を削除します。
 (Acrobat 8 以降使用時は未対応)

レイヤーに関するオプション

- LAY[lay_file] : 出力対象レイヤー指示ファイル名
指定されたレイヤー名のみを出力したいときに利用します。指定されたレイヤー以外を削除して保存します。
- ・ 日本語環境のみ対応となります。
 - ・ レイヤーの設定が無いオブジェクトは出力されません。
 - ・ 注釈は出力されません。
 - ・ レイヤー名称がレイヤーパネルに表示されていない場合でも対象になります。(背景・透かし等)
 - ・ 一致するレイヤー名が無い場合は保存のみ行います。
- DELLAY[lay_file] : 削除対象のレイヤー条件を設定したファイル名
レイヤーを削除する場合に使用します。削除したいレイヤーの条件を設定したファイルを指定します。レイヤーに属するオブジェクトも削除するかどうかも設定可能です。たとえば、非表示で印刷時のみ表示されるレイヤーを削除したい場合などに使用します。
- ・ 日本語環境のみ対応となります。
 - ・ レイヤー名称がレイヤーパネルに表示されていない場合でも対象になります。(背景・透かし等)
 - ・ 一致するレイヤー名が無い場合は保存のみ行います。

PDF ファイルの合成・比較に関するオプション

- MERGE[merge_file] : PDF のページ合成設定ファイル
合成時に座標の指定、回転、スケール等はできません。
- WMMERGE[merge_file] : PDF のページ合成設定ファイル
merge_file 内で指定した、任意の PDF 内の指定ページを背景か透かしとして入力 PDF ファイルに合成します。(要 Adobe Acrobat 7.0 以降)
- DIFF[flag] : PDF の比較方法設定フラグ
2つの PDF ファイルを比較して、比較結果を PDF 形式で出力します。
Acrobat の文書比較機能を使用します。
Flag = 0 のとき : ページ毎の視覚的違いを比較
Flag = 1 のとき : テキストのみ比較
Flag = 2 のとき : フォント情報を含むテキストを比較
Acrobat 6.0 以降であれば、属性ファイルで精度の設定が可能となります。

注釈に関するオプション

- ANINFO[ファイル名] : 入力 PDF の注釈情報を TEXT ファイルに出力します。
各パラメーターの意味は以下の通りです。
- PageNum ページ番号 (Index[0]の注釈の前に出力します。)
Index 注釈のページ内インデックス
Type 注釈の種類
Author 注釈の作成者
Date 注釈の更新日時
Height 注釈の高さ (単位:mm)
Width 注釈の幅 (単位:mm)
Rect 注釈の矩形座標。[左下] [右上] (単位:mm)
(例)

```
PageNum[2]
Index [0]
Type [FreeText]
Author [Administrator]
Date [2003/05/09 15:05:33]
Height [21.402021]
Width [34.807673]
Rect [98.072965, 171.213849] [132.880638, 192.615870]
```

- ANOUT[ファイル名] : 入力 PDF 内の注釈を Acrobat FDF ファイルで出力します。
出力された FDF ファイルは、Acrobat で注釈の取り込みをすることが可能です。

PDF ファイルの結合・ページ分割・回転・ページ抽出をするオプション

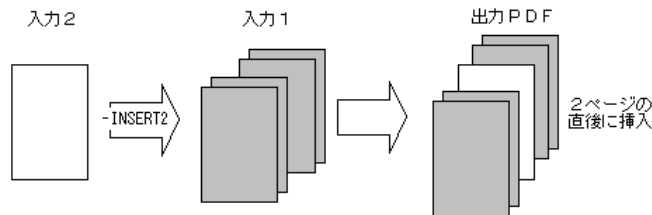
[pdf_1] [pdf_2] : 入力ファイル名を2つ指定
 入力ファイルを2つ指定することで、2つのPDFファイルを結合します。
 [pdf_1]の後ろに[pdf_2]を結合します。
 「-INSERT」や「-INPAGE」オプションを使用することで、挿入先のページ番号や挿入するページ範囲を指定することができます。

-MG_LIST[list_file] : 合成するPDFをリストで指定
 list_file内で指定されたPDFファイルを、指定順に連続合成します。
 なお、-MERGEの合成ではなく、ページを連結する合成となります。

-INSERT[ページ番号] : 挿入先PDFデータのページ番号を設定します。
 設定したページ番号の直後に挿入します。

※ページ番号の指定が無いとき、このオプションを指定しないときページ番号に「-1」を指定したときは最終ページとみなします。
 また、ページ番号に「0」を指定したときは先頭ページに挿入します。

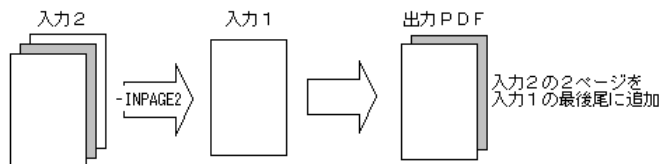
(例) -INSERTに2を指定して実行



-INPAGE[ページ番号] : 挿入するPDFデータのページ番号・ページ範囲を設定します。
 このオプションを指定しないときは、全ページを挿入します。

(例) 設定の方法は以下の通りです。
 -INPAGE1 1ページのみ指定
 -INPAGE2- 2ページ以降を指定
 -INPAGE1-3 1~3ページを指定

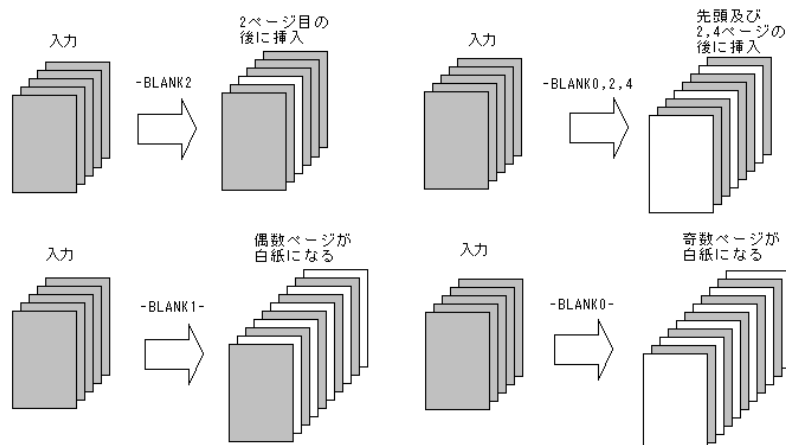
(例) -INPAGEに2を指定して実行



-BLANK[pages] : 指定したページの後に白紙の単ページを挿入
 挿入される用紙のサイズは、-BLANK_Pオプションで指定ができます。指定が無い場合は、先頭ページの用紙サイズを使用します。
 ※必ずページ番号を指定してください。

-BLANK1 1ページの後に白紙を挿入
 -BLANK2- 2ページ以降の各ページの後に白紙を挿入
 -BLANK1-3 1~3ページの各ページの後に白紙を挿入
 -BLANK1,3 1ページと3ページの後に白紙を挿入
 -BLANK0 先頭ページが白紙になる

(例) -BLANKの設定例



-BLANK_P[用紙番号] : -BLANK で挿入する白紙ページの用紙サイズを番号で指定します。
 このオプションを使用しない場合は、先頭ページの用紙サイズを利用します。
 0:A0 横 1:A1 横 2:A2 横 3:A3 横 4:A4 横 5:A5 横 6:A6 横
 20:A0 縦 21:A1 縦 22:A2 縦 23:A3 縦 24:A4 縦 25:A5 縦 26:A6 縦
 11:B1 横 12:B2 横 13:B3 横 14:B4 横 15:B5 横
 31:B1 縦 32:B2 縦 33:B3 縦 34:B4 縦 35:B5 縦

-DELPAGE[ページ番号] : 削除したいページを指定
 ページを削除したいときに設定します。
 -DELPAGE1 1 ページのみ削除
 -DELPAGE2- 2 ページ以降を削除
 -DELPAGE1-3 1~3 ページを削除
 -DELPAGE1,3 1 と 3 ページを削除
 -DELPAGE1-3,6-8 1~3 ページと 6~8 ページを削除
 -DELPAGE1,2,4-5 1 ページ、2 ページと 4~5 ページを削除
 また、ページ番号に-1 を指定すると、オブジェクトや注釈の無いページを削除します。

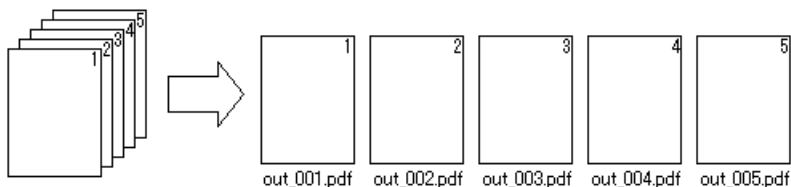
-MFILE[cols, flag] : ページ分割の方法等の指定
 入力 PDF データが複数ページの場合、分割して出力します。
 分割の単位はページ単位・しおり単位・任意の分割数を指定可能です。
 各出力ファイル名は、指定した最小桁数の連続番号を付加します。

- ・ ページ番号について
 (例) cols に 3 を指定 (-MFILE3 -odata.pdf)
 data.pdf → data_001.pdf, data_002.pdf, data_003.pdf
- ・ 分割方法について
- ・ flag に 1 を指定するか、無指定のときはページ単位で分割します。(例)-MFILE3,1 → ページ番号に 3 桁を指定し、ページ毎に分割。
- ・ flag に 2 を指定すれば、しおり単位での分割になります。最上階層のしおりの指定ページを分割ページとします。
- ・ flag に 3 を指定し、さらに-DIV オプションで分割数を指定すると、任意の数のファイルに分割します。
- ・ flag に 4 を指定すれば、しおり単位での分割になります。最上階層のしおりの飛び先ページを利用し、次のしおりの飛び先ページまでを分割の範囲とします。
- ・ 属性ファイルに設定があれば、ページ範囲を指定しての分割や、用紙サイズ毎に分割することも可能です。

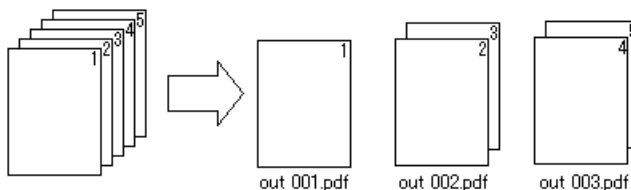
制限事項

- ・ -MFILE オプションは他のオプションと同時使用はできません。
- ・ 分割後の PDF データにしおりは存在しません。

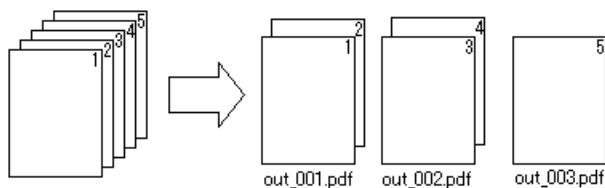
(例 1) 「-MFILE3,1」の場合。



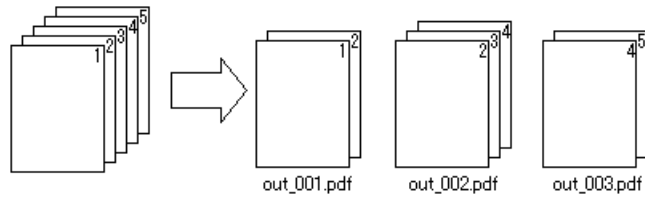
(例 2) 「-MFILE3,2」の場合。(しおりが 1、2、4 ページを参照していた場合。)



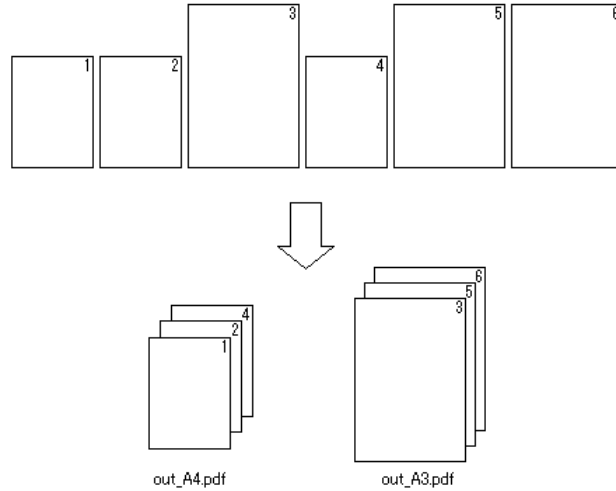
(例 3) 「-MFILE3,3」と「-DIV3」の場合。



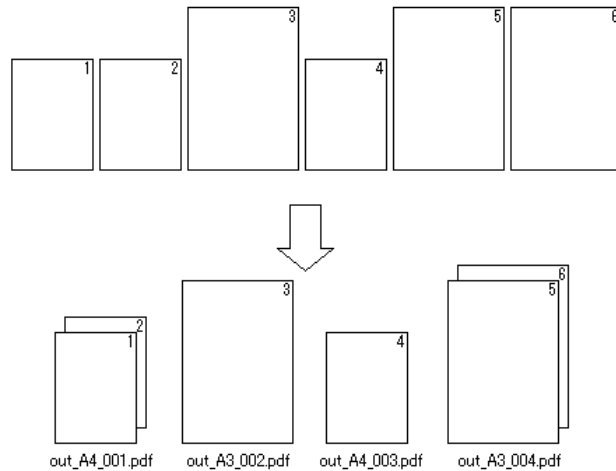
(例 4) 「-MFILE3,4」の場合。(しおりが1、2、4ページを参照していた場合。)



(例 5) 属性ファイルで、ページ毎の分割を指定した場合。



(例 6) 「-MFILE3」で、連続した同サイズ毎の分割を指定した場合。



- DIV[n] : 指定のページ数に分割
PDFを分割する場合に、指定した数のファイル数になるように分割します。-MFILEのflagに3を指定した場合に有効となります。ページ数を均等に振り分けできない場合は、先頭の方から1ページずつ多く振り分けれます。

(例) 10ページのPDFを3分割すると、4,3,3ページずつの分割となります。
- R[角度] : 回転角度
全ページを時計回りに回転させます。指定可能な値は[90][180][270]です。出力属性ファイルか-R_PAGEオプションで回転するページを指定が可能です。
- R_PAGE[ページ番号] : -Rで回転を行うページ番号を指定
属性ファイルの「ROTATE_PAGE」と同じ内容ですが、属性ファイルのように、複数で指定することはできません。なお、属性ファイルと同時に設定されている場合は、-R_PAGEオプションが優先されます。
-R_PAGE1,2,3 1,2,3ページを指定
-R_PAGE1-3 1~3ページ以降を指定
-R_PAGEODD 奇数ページを指定
-R_PAGEEVEN 偶数ページを指定

- GETPAGE[page] : 抽出したい PDF 文書のページ番号を指定し、別の 1 つの PDF 文書を作成します。複数ページを抽出するとき、出力ファイル名は下記のようになります。
「出力ファイル名+”_ {Page number}” +” .pdf”」
ページ番号の指定方法は以下の通りです。
-GETPAGE1 1 ページのみ
-GETPAGE2- 2 ページ以降
-GETPAGE1-3 1~3 ページ
-GETPAGE1,3 1 と 3 ページ
ページ番号に 0 または指定なしの場合には、入力データの全ページの抽出処理を行います。

PDF ファイルのページを入れ替えるオプション

- REPLACE[p1, p2] : 指定ページの入れ替えをします。
- REPLACE_F : PDF 文書の指定ページを他の PDF 文書の指定ページで入れ替えをします。
ページを入れ替えるための PDF ファイルは、属性ファイルにより指定します。
-SAVE オプションの追記保存の設定は無効になります。
- REVP : マルチページ PDF のページを逆順化します。
出力後の PDF 文書から、しおりを削除するかそのまま残すかの設定を属性ファイルの設定で行うことが可能です。
-SAVE オプションの追記保存の設定は無効になります。

サムネイルに関するオプション

- THUMB[flag] : サムネイルの作成・削除を指定
flag に 0 を指定するとサムネイルを削除する処理を行います。
flag が指定なしのときはサムネイルを作成する処理を行います。
- TMOUT[cols, pages] : PDF の指定ページを BMP 形式で出力
このときの出力ファイル名は「-0 オプション」で指定したものに、cols で指定した桁数の番号を付加して出力します。
※ ページ指定の方法
pages に 1-3 を指定した場合、PDF の 1~3 ページを出力
pages に 3- を指定した場合、PDF の 3 ページ以降を出力
pages に pages に -3 を指定した場合、PDF の 3 ページまでを出力
pages に 1, 3, 5 を指定した場合、PDF の 1, 3, 5 ページを出力
- TO[出力ファイル名] : 出力 BMP ファイル名の指定
「-TMOUT」オプション指定時のみ有効になり、出力ファイル名を指定するときに使用します。

PDF をラスター化して指定範囲を切り出すオプション

- CLIP[cols, pages] : PDF の範囲切り出し
指定したページを一度 BMP 化して、ラスターもしくは PDF 化します。
同時に下記の -CT、-CB、-CL、-CR、-CZ、-M を指定することで、クリッピングの範囲、出力フォーマットの変更や、出力される PDF を 1 つの PDF にまとめて出力することが可能です。
※ -CZ でラスター出力属性ファイル(ras_out. atr)を指定した場合にラスターとして出力します。
- CT[pixels] : クリッピング範囲の上側を指定します。
-CB[pixels] : クリッピング範囲の下側を指定します。
-CL[pixels] : クリッピング範囲の左側を指定します。
-CR[pixels] : クリッピング範囲の右側を指定します。
- CZ[属性ファイル名] : ラスター出力用の属性ファイル名称を指定
-CLIP と同時に使用したとき、PDF の任意ページをラスターで出力が可能です。

入力データの仕分けに関するオプション

- PAPER_OUTDIR : 指定したフォルダ内の PDF データを、用紙サイズ別に指定されたフォルダへ仕分けします。
・出力フォルダは属性パラメーター「A??_OUTDIR」を使用します。
・用紙サイズは先頭ページで判断します。
・用紙サイズは A0~A4 と長尺 A0~長尺 A4 が対象となります。
・他の機能との同時使用はできません。
- KEYWORD_OUTDIR : PDF のテキストを検証し、仕分けやページ分割を行います。
・仕分けの設定に関しては、出力属性ファイル(-Z)で行います。
・他の機能との同時使用はできません。

拡大・縮小に関するオプション

拡大・縮小のオプションに関しては、Adobe Acrobatを使用しません。弊社製品のPDFTOPDFを使用して編集を行います。これらのオプションはAcrobat X使用時または、Acrobat Xのデータは未対応です。

- A : 指定した出力サイズに収まる最大サイズに、縦横比を維持してスケールリングします。出力サイズは、用紙サイズの番号(-P)、1/100ミリ単位の長さ(-W,-H)、のいずれか、または複数を組み合わせて指定します。
- P[用紙番号] : 用紙サイズを番号で指定します。(A0~A6、B1~B5が選択可能)
- AR : イメージの向きに合わせて、-Pオプションで指定した用紙の向きを自動的に判断します。たとえば、イメージが縦長なら、-P4でも-P24でもA4縦の意味になります。同時に-Pオプションを指定した場合のみ有効になります。
- AL : 出力サイズに合わせてセンタリングを行います。
- S : スケール値を指定します。
-W,-Aオプションと同時に指定した場合は無効になります。
- W : 出力水平方向の長さを、1/100mm単位の値(mm単位の値×100倍)で指定します。
- H : 出力垂直方向の長さを、1/100mm単位の値(mm単位の値×100倍)で指定します。これらのオプションを単独で指定した場合は、指定した通りのサイズになるように、スケールリングが行われます。縦横の比率は保持されません。

変換ログに関するオプション

- LOG[ファイル名] : ログファイル名を設定
- RIREKI[ファイル名] : 履歴ファイル名を設定
- XMLLOG[ファイル名] : ログファイルをXML形式で出力
※閲覧にはXML対応ブラウザが必要です。
- XMLRIREKI[ファイル名] : 履歴ファイルをXML形式で出力
※閲覧にはXML対応ブラウザが必要です。
- MAXRIREKI[行数] : 履歴ファイルは記録できる最大行数を設定
- EM[ファイル名] : 変換結果をメール(e-mail)送信するための環境設定ファイル名

その他のオプション

- NODISP : 実行メッセージを画面に表示しないようにする
- Q : ヘルプメッセージを表示
指定可能な入力パラメーターを確認したいときに使用します。
- QV : バージョン情報を表示
- QS[infofile, s, e] : 入力ファイルの情報の出力先ファイル名
入力ファイルの情報をテキスト形式で infofile に出力します。
Infofile の指定が無い場合は標準出力になります。
s と e にページ番号を指定することにより、用紙サイズの情報を出力したいページ範囲を指定できます。

各項目の説明

FILE NAME	ファイル名称を表示します。
SECURITY	セキュリティ有効時は「ON」、無効時は「OFF」を出力します。
VERSION	PDFのバージョン情報を出力します。
TITLE	PDFのタイトルを出力します。未設定の場合「no title」を出力します。
AUTHOR	ファイルの作成者を出力します。未設定の場合「unknown」を出力します。
SUBJECT	PDFのサブタイトルを出力します。未設定の場合「no subject」を出力します。
PAGES	PDFの総ページ数を出力します。
xPAGE	xページの幅高を出力します。(単位:mm)

- QD[infofile, s, e] : 出力ファイルの情報の出力先ファイル名
出力ファイルの情報をテキスト形式で infofile に出力します。
使用方法は-QS と同一です。
なお、PDFMGPDF でセキュリティの設定を行った場合は、結果に反映されません。
- BATCH[batch_file] : バッチファイル名
バッチファイルで指定されたファイルまたはディレクトリ内のファイルを一括処理し
ます。

<使用方法>

処理の内容を記述したバッチファイルを-batch オプションで指定して実行します。
> PDFMGPDF -BATCH[バッチファイル名]

<制限事項>

- (1) バッチファイル内で指定できるファイル名(ディレクトリを含む)は、最大 255 文字までです。
- (2) ファイルでワイルドカードを指定する場合は、必ず拡張子を指定してください。
- (3) 出力コマンドは指定されたコマンドの後に出力ファイル名を付加して実行します。
- (4) ワイルドカードで指定した場合の処理されるファイルの順番はアルファベット順で処理されます。
- (5) スペースを含むファイル名を指定することはできません。

<バッチファイル作成上の注意>

- (1) バッチファイル内の項目は半角英数字で作成してください。
- (2) バッチファイルはテキスト形式で作成してください。
- (3) ファイル名の文字数についての制限はシステムに依存します。

操作例

例 1: PDF ファイル(in_dat.pdf)にテキスト(文字列)を合成して、「outfile.pdf」として出力します。
テキスト定義ファイル(sample.txt)を-TXT で指定します。

```
A> PDFMGPDF in_dat.pdf -Ooutfile.pdf -TXTsample.txt
```

PDFMGPDF 実行中

PDFMGPDF 実行終了

例 2: PDF ファイル(in_dat1.pdf)をページ単位で分割し、出力ファイル名(outfile.pdf)に 3 桁のページ番号
(XXn)を付加して出力します。(※nはページ番号)
詳細については、7ページを参照してください。

```
A> PDFMGPDF in_dat1.pdf -Ooutfile.pdf -MFILE3,1
```

PDFMGPDF 実行中

PDFMGPDF 実行終了

例 3: PDF ファイル(in_dat1.pdf)の 1、2 ページ目を指定範囲で切り出し、BMP ファイルに出力します。
(out_dat001.bmp、out_dat002.bmp)
また、その際に指定する出力属性ファイルに ras_out.atr を指定します。

```
A> PDFMGPDF in_dat1.pdf -Oout_dat.bmp -CLIP3,1,2 -CT50 -CB50 -CL200 -CR200  
-CZras_out.atr
```

PDFMGPDF 実行中

PDFMGPDF 実行終了

例 4: PDF ファイル(in_dat.pdf)内の全ページを 90 度回転させ、(out_dat.pdf)を出力します。

```
A> PDFMGPDF in_dat.pdf -R90 -Oout_dat.pdf
```

PDFMGPDF 実行中

PDFMGPDF 実行終了

例 5: PDF ファイル(in_dat1.pdf)と(in_dat2.pdf)を結合し、(out_dat.pdf)を出力します。
また、同時にページを BMP 化して(bmp_dat.bmp)を出力します。

```
A> PDFMGPDF in_dat1.pdf in_dat2.pdf -Oout_dat.pdf -T0bmp_dat.bmp
```

PDFMGPDF 実行中

PDFMGPDF 実行終了

制限事項

- ・ このプログラムを実行するには「Adobe Acrobat」の Ver 5.0 以降が必要です。「Adobe Acrobat Reader (Adobe Reader)」での動作は致しません。「Adobe Acrobat X」まで対応しています。
- ・ PDFMGPDF 実行時に Adobe Acrobat や Adobe Reader が既に起動している場合は動作をしません。また、PDFMGPDF の多重起動はできません。
- ・ PDFMGPDF が強制終了された場合、Adobe Acrobat のタスクが残ったままになる場合があります。そのまま連続して PDFMGPDF を実行すると Adobe Acrobat が既に起動されている状態になり、PDFMGPDF が実行できません。その場合は Adobe Acrobat のタスクを終了後に実行してください。
- ・ Adobe Acrobat を使用して編集・保存を行いますので、正常に出力された PDF ファイルの、内部構造の内容に關しましてはサポート対象外となります。また、Adobe Acrobat の不具合が原因となるエラー等にもサポート対象外となります。
- ・ 何らかの原因で Adobe Acrobat との接続に失敗した場合や、Adobe Acrobat が正常に使用できない場合は、正常に実行できません。
- ・ ネットワーク上やサービスからの実行には対応していません。
- ・ Adobe Acrobat を使用していない場合でも、プロセスが残っている状態では動作いたしません。プロセスを終了した後、実行してください。IE 等のブラウザを使用して PDF を開いた場合は、ブラウザを閉じて Adobe Acrobat のプロセスが残っていますのでご注意ください。
- ・ Acrobat のバージョンが 5.01 の場合、TEXT の書き込みで全角フォントを使用すると不具合があります。その場合、Acrobat の最新版を入手してください。(Ver5.05 での動作確認済)
- ・ 文字の縦横のサイズを違う値に設定するのは未対応です。
- ・ 文字の角度を指定するのは未対応です。
- ・ 指定したフォントが使用できなかったときは、「MS-Gothic」を使用します。
- ・ 同名ファイルの合成はできません。
- ・ 入力ファイルがセキュリティで保護されている場合は正常に処理できない場合があります。
- ・ -MFILE オプションは、他のオプションと同時使用はできません。
- ・ -DELETE オプションと -INSERT オプションを同時使用した場合、-DELETE オプションのみ実行します。
- ・ イメージの貼り付けを行う場合で、-MERGE オプションを使用し、かつ、マルチページのイメージを扱うときは、-N オプションで合成したいページ番号を指定してください。指定の無いときはイメージの 1 ページ目を PDF に貼り付けます。
- ・ ページ合成時に、スケール・回転・オフセットの設定を指定することはできません。オブジェクトと注釈をそのまま合成先ページに出力します。
- ・ ページ合成時にイメージ等があった場合、透過できないため、合成先のオブジェクトが隠れます。
- ・ ページ内の範囲切り出し、PDF 出力の処理で、出力された PDF は、指定された範囲をラスタライズして、それを元に PDF を作成しているため、入力 PDF のオブジェクト等の要素は再現されません。
- ・ -TX0 でテキストを出力する場合、テキスト注釈の文字列は出力されません。また、データに現れる順序通りに出力していくため、必ずしも見た目の順番通りに出力されるとは限りません。PDF のテキストには改行コードが含まれていないため、座標や文字列方向から改行位置を決定しますが、改行の位置が表示と一致するとは限りません。また、無効な文字コードは「?」を出力します。
- ・ ファイルの比較は、Adobe Acrobat の「文書の比較」を行います。精度の設定はできません。かつ、全ての処理を許可する状態にします。また、セキュリティを解除できるのは入力ファイル 1 のみとなります。
- ・ しおりを CSV 出力する機能で対象となるのは、ページ移動のアクションのみとなります。
- ・ JavaScript による有効期限の設定は、ページを開いたときにメッセージを出力する機能と、強制的に任意のページにジャンプさせる機能を付加するものであり、PDF のオープン自体を制限することはできません。

- ・イメージ合成で対応するフォーマットは以下の通りです。ただし、イメージのフォーマットが判定できなかった場合は正常に合成されません。
 - ・TIFF (非圧縮, Packbits, JPEG, CCITT-1D, MMR, MR, MH, LZW)
 - ・Sun ラスター (非圧縮, RLE, MMR, MR, MH) (1, 8, 24, 32 ビット)
 - ・X ラスター (非圧縮) (1, 4, 8, 16, 24, 32 ビット)
 - ・JFIF 形式の JPEG (プログレッシブ対応)
 - ・Windows Bitmap (非圧縮) (1, 4, 8, 24 ビット)
 - ・PC PaintBrush (RLC 圧縮) (1, 3, 4, 8, 24 ビット)
 - ・G3FAX (2 次元圧縮)
 - ・G3FAX (1 次元圧縮)
 - ・FAX (MH・MR)
 - ・GALS-G4 (type1, type2)
 - ・IOCA (IBM-MMR, MMR, 非圧縮)
 - ・ヘッダなしの IOCA 圧縮データ
 - ・富士ゼロックスラスタ (MMR 圧縮)
 - ・EDMICS ラスタ (MMR, RLC)
 - ・富士通 MIE~L (MMR 圧縮)
 - ・TOSFILE (MMR, MR, MH)
 - ・NSXPRESS (MMR, MR, MH)
 - ・X-bitmap (2 値)
 - ・GTX ラスタ (G4)
 - ・FORMTEK
 - ・PNG (1~64 ビット、カラー/グレイ、プログレッシブ対応)
 - ・Portable BitMap (ASCII/バイナリ、2 値)
 - ・Portable GrayMap (ASCII/バイナリ、グレースケール)
 - ・Portable PixMap (ASCII/バイナリ、カラー)
 - ・Calcomp ラスタ (2 値、IL 形式 KCMY カラー)
- ・イメージの透過には、Adobe Acrobat5.0 以降が必要となります。また、入力 PDF ファイルのバージョンが 1.3 以上である必要があります。
- ・-DELWORD (指定の文字削除) は、テキストオブジェクトを PDF が保持する文字列単位で検索し、一致した文字列を「指定した文字列を削除した文字列」と入れ替えます。そのため、検索時に取得した文字列内に指定の文字列が無ければ、表示したときに一致している文字列でも、削除されません。
- ・-MERGE で Acrobat6.0 以降の透かしや背景を合成しても、透かしや背景としては合成されません。
- ・画像抽出機能で出力できる画像形式は TIFF・JPEG・PNG のみとなります。
ファイル名称にページ番号や画像のインデックス、拡張子等を自動的に付加して出力します。
Acrobat7.0 以降の場合は、抽出する画像の最小サイズが設定できないため、画像サイズによっては抽出できません。
最小サイズの設定は Acrobat に依存されます。
- ・しおり追加の機能は、文書内のページを表示するアクションのみに対応しています。
- ・PDF ファイルの合成をしたときに、合成する PDF にしおりがあった場合、先頭ファイルのしおりの後に合成する PDF ファイル名のしおりが作成され、そのしおりの下の階層に合成する PDF のしおりが作成されます。
- ・文字の削除機能 (-DELWORD) につきましては、データによっては正常に行えない場合があります。
- ・実行環境や PDF データにつきましては、日本語環境のみ対応しております。
- ・上位バージョンのセキュリティを設定したデータは編集できません。
- ・添付ファイルを開くためのパスワードが設定された PDF は編集できません。
また、指定された場合、PDF ファイルをオープンしたときに Acrobat のパスワード入力ダイアログが出て PDFMGPDF の処理が中断されてしまいますので、添付ファイルを開くためのパスワード付の PDF は使用しないでください。
- ・"-DELPAGE-1" で削除される条件は、Acrobat によりオブジェクトと注釈の数を取得し、共に存在しない場合とします。見た目上では白紙でも、何らかのオブジェクトが存在している場合もあります。そのような場合は削除ページの対象とはなりません。
- ・-TL で閲覧制限を設定した PDF データについて
 - ・PDF 編集用の入力データとして再度使用することはできません。
 - ・Adobe Acrobat4.x (Reader も含む) では閲覧できません。
 - ・PDF の JavaScript、フォーム、レイヤー機能に対応していないビューアでは閲覧できない場合があります。
- ・Windows の OS を長時間(数ヶ月単位)再起動せずに使用すると、環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用される全てのソフト・ドライバの複合要因であり発生した場合、原因の特定および回避は全てのアプリケーションが関係している関係で、現状では不可能です。

- ・出力される PDF データのバージョンについては、使用される Adobe Acrobat のバージョンに依存されます。PDFMGPDF の設定でバージョンを指定して出力することはできません。
ただし、Acrobat 8 以降の Professional 版をご使用の場合は、「-PDFOPT」オプションにより、PDF の最適化を行うことで、バージョンを変更することが可能です。
- ・Acrobat 8 以降を使用する場合、PDFMGPDF 実行後にウィンドウのサイズや位置が変更される現象が発生します。また、Acrobat 8 の環境設定で、「各文書を独立したウィンドウに表示」を ON にしている状態では、PDFMGPDF 実行中に Acrobat のウィンドウが表示されませんので、実行中は Acrobat を操作しないようにご注意ください。
- ・PDF の最適化機能「-PDFOPT」は、Acrobat 8 以降の Professional 版のみ対応しています。また、最適化の設定を Acrobat の最適化機能のプリセット名で登録しておく必要があります。
デフォルトに存在する「標準」や「カスタム」は使用できません。
- ・Acrobat 7.0 以降を使用して編集を行った場合、Acrobat 6.0 以前を使用した場合よりも変換時間が遅くなります。Acrobat 7.0 以降では、編集処理終了後、Acrobat を開放しても、すぐにはプロセスが終了しません。プロセスが終了するまでは、次の処理を行わない仕様のため、Acrobat 6.0 以前を使用した場合よりも変換速度が遅くなります。
- ・「アドバンスド」->「PDF の最適化」の項目が選択できない状況では、PDF の最適化は実行できません。
- ・Adobe Acrobat を利用して PDF の編集を行いますので、Adobe Acrobat で正常に開けないデータや、正常に編集ができないデータに関しては、対応することはできません。
- ・「ISO-32000-1」への対応につきましては、下記の条件をみたしている必要があります。
 - ・入力ファイルが「ISO-32000-1」に準拠した PDF ファイルであること。
 - ・Adobe Acrobat 8 以降を使用。
 - ・Adobe Acrobat 9 以降を使用時、出力後の PDF のバージョンが「1.7, Extension Level x」にならないこと。
 ※256bit-AES のセキュリティや、Acrobat 9 に最適化した PDF を出力した場合は、「ISO-32000-1」準拠とはなりません。
- ・拡大縮小に関するオプションは、Acrobat X 使用時または Acrobat X のデータには未対応です。